

「夏枯れの対処 ～草地の簡易更新（追播）～」

長かった酷暑もようやく峠を過ぎ、やっと小さい秋を見つけられるようになりました。今年は、史上最高に暑い夏で、九州南部の平年と同程度の暑さだったとのこと。人も牛もかなりこたえたと思います。そして、同じくこたえているのは牧草地。暑さや干ばつで枯れてしまった圃場をよく見かけます。このまま放っておくと、来年の牧草収穫量は激減してしまいます。飼料価格が高止まりしている中、牧草が採れなかったら…なんて考えたくありません。

そこで今号では、牧草が枯れるなどして裸地が増えてしまった草地の更新、中でも今からでも作業が間に合う「簡易更新（追播）」についておさらいします。



< 草地更新の目安 >

裸地を放置しては **ダメ!**
そこには必ず雑草が入り込んで来ます。



▶ 雑草と裸地を合わせた面積が全体の3～5割以上になったとき

- ・草地の半分以上が雑草のとき ▶▶ 「完全更新」 ▶▶ (R3年7月号をご覧ください)
- ・草地の半分以上は牧草で、雑草割合が3割未満のとき ▶▶ 「簡易更新（追播）」

夏枯れが起きる原因



暑いときの刈取り時期の判断や刈取り方法など、慎重さが足りなかった…



- ← 県南地域の牧草地
- ← (R5年8月中旬撮影)
- ← 7月下旬に2番草収穫
- ← 刈り高は5cm程度
- ← イネ科牧草の多くが枯れ裸地化

1 地温の上昇 (地温30℃超が続くと牧草は瀕死に)
地表を覆っていた草が刈られたことで地表があらわになり、地温が一気に上昇する。

→ [対応策] **地表から15cm残して高めに刈る**
(最低でも10cm)

2 干ばつ

降水量不足により収穫後の牧草の再生が遅延。そこに暑さが重なり長期間の地温上昇となる。

→ [対応策] **数日後に雨が来そうなタイミングで刈取りする。**しばらく雨が見込めない場合は刈取延期の判断も必要。

スマホの高さが約15cmだよ



< 播種時期は? >

▶ 3番草 (もしくは2番草) 収穫直後がベスト かつ 9月下旬まで

- ・既存の草が短い状態で行う必要がある。よって収穫直後がベスト。
- ・岩手県南地域の場合、9月下旬までに播種する。
- ・裸地が全体の7割以上あるときは、早春の播種も可。必ず4月上旬までに播種する。

< 施肥は? >



▶ 播種後の施肥は基本的に不要

- ・通常の草地管理における施肥で十分なので、別途施肥する必要はないという考え方。
- ・播種後に施肥をすると既存牧草の生育が旺盛になり、発芽した個体が被圧され、負けやすくなることから、施肥しない方が発芽した個体の定着が良くなる。
- ・ただし、発芽した個体の生育が緩慢な場合は、播種から1か月程度経過した後、硫酸など窒素成分の多い肥料を少量 (窒素成分で2kg/10a程度) 散布する。



< 簡易更新(追播)の作業工程 >

雑草防除したい場合は、別途、除草剤散布します。
通常はたい肥散布の前に行います。



① たい肥散布 (省略可能)

追播機を使う場合、追播機に負担をかけてしまうので薄く散布する。
(完熟たい肥 1～2t/10a 程度)

② 土壌改良剤散布

炭カルなら50kg/10a程度が目安

③ 播種

④ 鎮圧

播種量 オーチャードグラスなら2.4kg/10a程度が目安

ブロードキャストで播種する場合は必ず鎮圧を！
追播機の場合は表層がはがれてしまった時など、必要に応じて鎮圧する。



ポイント

草種と品種の選定

草種による耐暑性の違い

強い ↑
↓ 弱い

- ・ トールフェスク
- ・ リードカナリーグラス
- ・ **オーチャードグラス オススメ!**
- ・ ペレニアルライグラス
- ・ チモシー

※耐暑性に優れる草種は、一般的に嗜好性が劣る

さらに **注目!**

同じ草種の中でも耐暑性がある品種の選択を！

例) オーチャードグラスなら「まきばたろう」、「ポトマック」など

年間シリーズ

＝ 追播機の例 ＝

- ・ 溝の切り方
 - ・ 播種深度
 - ・ 鎮圧の有無など
- 機種ごとに特徴があります



※鎮圧有
グレートプレーンズ



シードマッチ



※鎮圧有
ハーバーマット

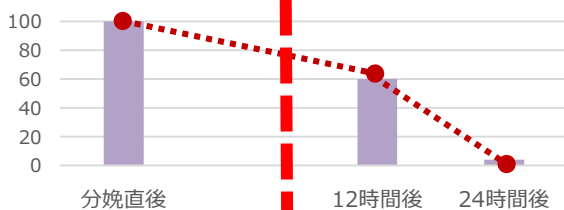
《子牛を大きく育てよう!》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→



○ 初乳給与について

図1 初乳中免疫グロブリン濃度



分娩後6時間までが勝負!

- ・ 分娩後6時間以内に初乳を飲ませる!
- ・ 分娩房は清潔に!
- ・ 1～2産目は子牛が吸う前に初乳製剤2袋を目安に給与!

2-4-6でチェック!

- ☑ 2時間後に起立欲があるか
- ☑ 4時間後に哺乳欲があるか
- ☑ 6時間以内に体重の5%以上を飲めるか (体重30kgの子牛なら1.5ℓ以上)

図2 子牛の免疫グロブリン吸収率

お問い合わせ>> 奥州農業改良普及センター
0197-35-8451



一関農業改良普及センター
0191-52-4961